

# 明泉寺台燈籠 13年ぶり修復

## 穴水・能登中居鋳物館 あす作業開始

## 金沢学院大生協力、8日は一般公開

かつて鋳物生産で栄えた穴水町中居地区の歴史を伝える町指定文化財の鉄灯籠「明泉寺台燈籠」の修復作業が七、八両日、展示されている能登中居鋳物館（中居）の敷地内で行われる。修復作業は十三年ぶりで、今回は貴重な作業風景を八日に一般公開する。当日は同館を無料開放し、中居鋳物の傑作とされる技術を間近で感じてもらう。

（小林大晃）



13年ぶりに修復作業が行われる明泉寺台燈籠＝穴水町中居の能登中居鋳物館で（穴水町教委提供）

現存する中居鋳物の中で 設された。八つの鋳物部材最大の高さ二尺六十八寸を誇る一対の鉄灯籠。江戸時代後期の一八四九年の銘が刻まれている。同町明千寺の古刹、明泉寺の観音堂前にあったが一九九五年に移が、国立民族学博物館（大

阪府吹田市）の主導で二〇年に修復が完了した。

一般的に灯籠の修復は専門業者の作業場で行われるため、作業風景を見る機会はめったにない。今回の修復は五月、当時修復に携わった同博物館の日高真吾教授や金沢学院大の中村晋也准教授らが灯籠の状態を確認し、さび止め作業などが必要と判断したことを受けた。同大の学生も作業に協力する。

次回の修復は何年後になるか分からないといい、町教委の担当者は「夏休みのこの機会に、親子で中居の鋳物文化について触れてもらいたい」と来場を呼びかけている。八日の作業は午前九時～午後四時ごろの予定だ。

## 増穂浦発 音楽で元気に

# 能登音LIVE 沸く

「富木神幸太鼓焔」など13団体披露

志賀町や能登を音楽で元気づけたいと、県内の音楽グループなどを集めたイベント「能登音LIVE」（北陸中日新聞後援）が五日、志賀町相神の能登リゾートエリア増穂浦であった。十三団体が出演し、海が目の前に広がる特設ステージで三線などの楽器演奏やダンスを披露。地元の